

公共事業等 事前評価書

公共事業 ・ 非公共事業

担当部局	教育庁 高校教育課 高校教育改革推進室 (内線 5 2 4 7)
	財務課 施設担当 (内線 5 1 7 3)
作成年月日	平成 2 4 年 9 月 2 4 日

1 事業概要

(1) 事業名	新実習船建造事業	(2) 名称	実習船建造								
(3) 事業主体	茨城県	(4) 国補・県単 交付金	交付金 (学校施設環境改善交付金)								
(5) 箇所名	ひたちなか市和田町 (県立海洋高等学校)										
(6) 事業費及び負担割合	(単位：百万円)										
	区 分	計	国	県	市町村	その他計					
	事業費	1,508	314	1,194							
	負担割合		20.8%	79.2%	%	%					
(7) 事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 県立海洋高等学校の実習船鹿島丸は、平成 5 年 3 月の竣工から、まもなく 2 0 年が経過し、老朽化が進んでいることから、代船を建造することにより、生徒の安全を確保するとともに、海技士養成に必要な航海実習を継続することで、人材の育成を図る。 										
(8) 計画概要	<p>○期間 平成 2 5 年度 概略設計・基本設計 平成 2 6 ～ 2 7 年度 代船建造工事</p> <p>○代船の規模 総トン数 3 0 0 トン未満 (現行 4 9 5 トン)</p>										
(9) 予定期間等	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 25%;">事業採択予定</td> <td style="width: 25%;">平成 2 5 年度</td> <td style="width: 25%;">完成予定</td> <td style="width: 25%;">平成 2 7 年度</td> </tr> </table>					事業採択予定	平成 2 5 年度	完成予定	平成 2 7 年度		
事業採択予定	平成 2 5 年度	完成予定	平成 2 7 年度								
(10) 県計画基本方向における位置づけ	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">目標</td> <td>2 人が輝くいばらきづくり</td> </tr> <tr> <td>政策</td> <td>(1) いばらきを担うたくましい人づくり</td> </tr> <tr> <td>施策</td> <td>③ 県民に信頼される魅力ある学校づくり</td> </tr> </table>					目標	2 人が輝くいばらきづくり	政策	(1) いばらきを担うたくましい人づくり	施策	③ 県民に信頼される魅力ある学校づくり
目標	2 人が輝くいばらきづくり										
政策	(1) いばらきを担うたくましい人づくり										
施策	③ 県民に信頼される魅力ある学校づくり										
(11) 事業検討の経過	<p>平成 1 8 年度 茨城県水産教育の在り方検討会議を設置・検討</p> <p>平成 2 1 年度 「本県水産教育の在り方について」(報告) 実習船の規模は『3 0 0 トン程度に縮小』と報告</p> <p>平成 2 2 年度 専攻科の在り方に係る意見聴取会議</p>										
(12) 管理運営	<ul style="list-style-type: none"> 設置者である県が管理する。(日常的な管理は学校が行う。) 										

2 評価内容

<p>(1) 事業の必要性</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現在の鹿島丸は、平成5年3月に竣工し、全国の水産高校の実習船のなかで最も古いことから、代船建造により安全性を確保する必要がある。 海洋高校の専攻科の募集を平成26年度に停止し、27年度末で閉科予定であること、また、本科の学科改編を検討していることから、新たな教育課程に対応できる実習船を建造する必要がある。 本県は、水産県、海洋県として、地域における水産・海洋関連産業の人材育成が求められており、特に重要な資格である海技士（5級）を養成するためには、航海実習を継続していく必要がある。 高等学校学習指導要領では、航海実習は所属の実習船で行うことと規定されているため、民間等の所有する船を利用することは出来ない。 <p>竣工年度別実習船一覧</p> <table border="1" data-bbox="504 633 1362 833"> <thead> <tr> <th>船名（県）</th> <th>竣工年月</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鹿島丸（茨城県）</td> <td>H 5. 3</td> <td>20年目</td> </tr> <tr> <td>海洋丸（新潟県）</td> <td>H 7. 3</td> <td>18年目、更新未定</td> </tr> <tr> <td>但州丸（兵庫県）</td> <td>H 7. 3</td> <td>18年目、H25設計予定</td> </tr> <tr> <td>雲龍丸（福井県）</td> <td>H 7 3</td> <td>18年目、更新未定</td> </tr> </tbody> </table>	船名（県）	竣工年月	備考	鹿島丸（茨城県）	H 5. 3	20年目	海洋丸（新潟県）	H 7. 3	18年目、更新未定	但州丸（兵庫県）	H 7. 3	18年目、H25設計予定	雲龍丸（福井県）	H 7 3	18年目、更新未定
船名（県）	竣工年月	備考														
鹿島丸（茨城県）	H 5. 3	20年目														
海洋丸（新潟県）	H 7. 3	18年目、更新未定														
但州丸（兵庫県）	H 7. 3	18年目、H25設計予定														
雲龍丸（福井県）	H 7 3	18年目、更新未定														
<p>(2) 事業の有効性</p>	<ul style="list-style-type: none"> 安全かつ新しい教育課程にふさわしい実習船になるとともに、女子生徒の増加に対応するなど、快適性をもった実習船となる。 本県で唯一の水産高等学校として、海技士の養成を図るなど、引き続き、本県水産業の担い手となる人材育成が可能である。 															
<p>(3) 事業の妥当性</p>	<ul style="list-style-type: none"> 代船建造により、航海実習等の安全が確保される。 いばらき教育プランにおいても第5章第2項第2節において、多様化する学習内容に対応した学習環境整備の推進が位置づけられている。 第2次県立高校再編整備の基本計画（H23～H32）において、本県水産業を担う人材の育成を進める必要があるとしている。 専攻科での海技士（3級）養成のためには、大型船（300トン以上）が必要であるが、専攻科を閉科することから中型船（300トン未満）で対応可能である。 															
<p>(4) 事業の優先性</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実習船をもつ県立学校は、本県では唯一海洋高等学校だけであり、全国の水産高等学校の実習船で一番古いことから、安全性確保のため、代船を建造する必要がある。 新たな教育課程に基づいた航海実習に対応するため、また、定期検査の更新をしないため、平成27年度までに建造する必要がある。 															
<p>(5) 事業の効率性 7) 事業の効果 イ) 地域間格差の是正</p>	<p>B：主な効果 億円</p> <p>(定量化できない効果項目) ①実習船の安全確保が図られる。 ②生徒の実習環境の改善が図られる。</p> <p>C：主な費用 16.6億円</p> <p>(費用項目) 建造費（設計含む） 15.1億円 運営費（年間） 1.5億円</p> <ul style="list-style-type: none"> 海洋高等学校は本県唯一の水産高校である。 															
<p>(6) 県民意見の反映</p>	<p>専攻科の在り方に係る意見聴取会議 (H23.2, 茨城沿海地区漁業協同組合連合会など5事業者から意見聴取)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本県の基幹漁業のため、海技士（5級）養成の継続を要望する。 															
<p>(7) 自然環境への配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> 代船建造にあたっては、環境への負荷の低減が図られるよう配慮する。 															
<p>(8) 特記事項</p>																

3 実施に際しての留意点

- ①代船建造にあたっては、必要以上に華美にならないよう配慮するとともに、十分な安全性を確保する。
- ②社会状況の変化や女子生徒の増加などに対応できる実習船とする。

4 総合評価

- ・実習船の安全を確保するため、事業の早期実施が必要である。

【現鹿島丸の写真】

